



びわ湖の水の透視度調査

学習のねらい	
<p>○びわ湖の各所の透視度を調べ、水のにごり具合の違いに気づくとともに、水とわたしたちのくらしの結びつきについて興味・関心をもつことができる。</p> <p>○過去と現在のびわ湖の水の透視度を比較することで、過去の実態や濁っていた原因、また、改善されてきた経緯や先人の努力について考えることができる。</p>	
準備物	
うみのこ船内で準備できるもの	乗船校で準備するもの
<ul style="list-style-type: none"> ・湖内の水（約30%） ・滋賀県地図パネル ・「湖の子」透視度水槽 ・県全域の透明度図パネル ・透視度調べ測定用具 ・透明度盤 ・ポリタンク （透明度の測定法を児童に示す） ・衛星写真シート ・水中カメラ 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵の具【40年前の水再現用】（緑色、茶色…各ティースプン1杯分） 500mlペットボトルで作成 ・地域の川の水（必要に応じて） ※流水と平水では、にごりの主なもとを比較しにくい ・びわ湖の水の透視度調査ワークシート
主な学習の流れ	ポイント（○）及び留意点（☆）
はじめ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本学習のめあてを確認する。 2. 各地の水のにごり具合や色について予想したことを交流する。 3. 水中カメラを使用して水中の様子を実際に観察したり、別地点の様子を動画で見たりする。 <p>○フローティングスクールのテーマとのつながりを意識して示す。</p> <p>☆水中カメラは、本学習の事前で活用することもできる。</p>
なか	<ol style="list-style-type: none"> 4. 透視度調べ用具を使って、実際に観察したり、測ったりして比較する。 5. 水のにごり具合や色が違う理由を考え、意見を交流する。 <p>☆同じ場所の水（水槽）を多数の児童で、同時に観察することができないので、観察順序等を配慮する。</p> <p>○衛星写真シートを活用し、びわ湖の地形や流れに注目できるようにすることで、にごりの原因に気付けるようにする。</p>
おわり	<ol style="list-style-type: none"> 6. 本学習のまとめをする。 <p>○フローティングスクールのテーマとのつながりを意識してまとめができるようにする。</p> <p>○学習のまとめや乗船後の学習につながるようにする。</p>

（※1）活動場所・・・ 3階甲板・実験室 （※2）実施時期・・・ 通年

※うみのこ船内で準備できるものについては、児童・指導者の人数や班の数に合わせて準備することもできます。